

算命学中庸

【初年】 37 回目

37 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【二星相関変化法】 ②

【初年】 37 回目 【二星相関変化法②】 01

□ 二星相関変化法 ②

【二星相関変化法①】の続きが【二星相関変化法②】です。

【二星相関変化法①】では、法則〔1〕～〔8〕までをやりました。

法則〔1〕 陽と陰の組み合わせ ⇒ 和が生じる。

法則〔2〕 陽と陽の組み合わせ ⇒ 反発する

陰と陰の組み合わせ ⇒ 反発する

法則〔3〕『相剋』 動的現象〔星同士が相剋になると動的現象〕

法則〔4〕『相生』 静的現象〔星同士が相生になると静的現象〕

法則〔5〕『比和』 静止〔星同士が比和だと静止する〕

法則〔6〕『比和で同星』 『比和で陰陽』

法則〔7〕（陰）と（陽）の相剋 ⇒ 弱い相剋

法則〔8〕（陰）と（陰）／（陽）と（陽）の相剋 ⇒ 強い相剋

人物 —— ＊ウオルト・ディズニー ＊ゴッホ ＊本田宗一郎

＊麻原彰晃 ＊マリリン・モンロー ＊メーガン妃 ＊アスカ

＊アインシュタイン ＊ヒットラー ＊志村けん ＊タモリ

＊宅間守 ＊岡村浩昌 ＊林真須美 ＊佐藤宣行

【二星相関変化法】星の組み合わせは55種類ありますが、そのなかのいくつかに焦点をあててということで、41頁からは――

①〔貫索星〕と〔貫索星〕 ②〔貫索星〕と〔石門星〕

③〔貫索星〕と〔禄存星〕 ④〔貫索星〕と〔玉堂星〕

⑤〔鳳閣星〕と〔龍高星〕まで説明しました。

「七殺」〔水火の激突〕も出てきました。

【二星相関変化法】②

⑥〔鳳閣星〕と〔調舒星〕からはじめます ➡

6 鳳閣星と調舒星

〔鳳閣星〕は陽星、〔調舒星〕は陰星です。

星の特徴は……

星の特徴	〔	鳳閣星（陽）のんびり
		調舒星（陰）神経質

のんびりと神経質とでは、異なる質ですが、比和の陰陽になっています。

〔鳳閣星〕のんびり ——（陽）は表面にしやすい

〔調舒星〕神経質 ——（陰）は内面にしやすい

『比和』で（陰）と（陽）の星の場合は、〔陽星〕のほうは“表面にしやすい”とっています。

〔陰星〕のほうは“内面にしやすい”とっています。

（陽）と（陰）では、陽のほうが目立ちますから、表面に出やすいわけです。

つまり、人体図に〔鳳閣星〕（陽）と〔調舒星〕（陰）をもっている人は、のんびりと神経質、この両方の性質を備えていますが、（陽）のほうが目立ちますので、まわりの方が、その人物を見たときに、鳳閣星の質（のんびり）のほうが、際立^{きわだ}って見えるということです。調舒星の質（神経質）のほうは、内面に隠れてしまうわけです。

このことは、ほかの星もおなじです。

『比和』で（陰）と（陽）の星になっている場合には、どの星であっても、陽星のほうが表面にでやすいです。

〔鳳閣〕と〔調舒〕の場合は、鳳閣星の質“のんびり”のほうが、他人^{ひと}の目にとまりやすいといえます。鳳閣星のもつ性質が目立つわけです。

7 鳳閣星と牽牛星

ここでの意味は、少しわかりづらいと思います。

理知的（理性や知性に富む）

お調子者（軽はずみ、おちょこちよい）

よくいえば「理知的な人」といえます。

悪くいえば「お調子者」で、やることがいい加減であるとか、その時々調子を合わせて、うまく立ち回る面をもちます。

良くいえば理知的で、悪くいえばお調子者という意味を含んでいます。

8 調舒星と龍高星

〔調舒星〕と〔龍高星〕は、36回目に出てきましたが、〔水火の激突〕の組み合わせでもあります。

不満が多い

龍高星は、もともと不満が多い星ですし、調舒星もそういう性質をもっています。

この組み合わせは“不満が多い”そうっています。

不満が多い人は「文句ばかりいう人」そのような印象を思い浮かべやすいでしょう。

“なにかに不満がある”とすれば、その不満というのは“なにかを改善するため”に知恵を働かせる原動力ともいえます。

言葉を換えれば、「向上心かが強い人」という意味合いにもなります。

つまり、現状に満足していないわけです。

向上心かが強い

向上心がなければ、不満はあまり出ないでしょう。

〔調舒星〕と〔龍高星〕の組み合わせは、向上心が強い星同士ですから“不満が多くなりやすい”という意味も含まれています。

龍高星には「改革の星」という意味があります。

なぜ……改革したくなるのかといえ、現状に不満だから改革したくなるわけです。

改革心が強いというのは、もともと内面に不満が多いのです。

向上心が強ければ、不満の芽がでてきます。

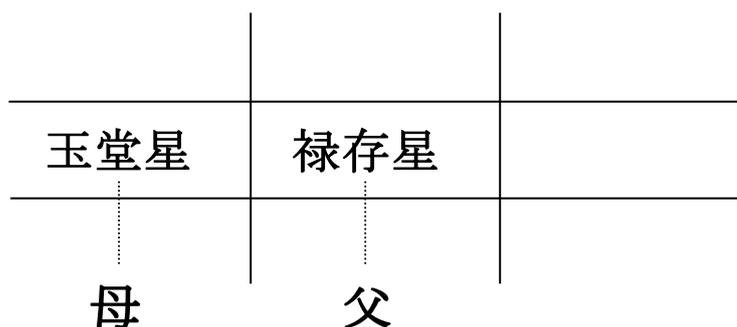
「不満が多いと、文句も多い」というふうな印象を受けやすいと思います。

しかし、悪い意味ばかりとはいえないのです。その裏側にはさまざまな意味合いが横たわっているとおもえます。それらのことを併せて考えるのは……いかがでしょう。

9 禄存星と玉堂星

この組み合わせは、すこし特殊です。

具体的に考えてみましょう……。



〔たとえば〕 人体図の場所はどこでもよろしいですから玉堂星と禄存星があるとします。

人物になおすと〔玉堂星は母親の星〕〔禄存星は父親の星〕という意味があります。

人物の見方はまだやっていませんけど——人体図に禄存星と玉堂星のある人は、父の星と母の星がそろっています。

この人物が宿命どおりの生き方ができる環境は、父と母の両方そろっている環境なわけです。

この人体図には、父の星と母の星の両方がそろっていますから、父と母がきちんと揃っていて、両親の仲が良くて、温かい家庭で

育つと、この人体図の人は宿命に合っています。

宿命どおりです。ということになります。

両親の仲が良くて、温かい家庭に育つことが、

この人にとっては、宿命どおりである。

わかりやすくいえば、両親の仲が良くて、温かい家庭に育つと運勢が伸びます。そういう宿命です。

そのような環境で育てば、人間的にも、運勢的にも、宿命と合致していますから順調に伸びますよ。そういう意味になります。

言葉を換えれば——人体図に禄存星と玉堂星の両方がそろっているということは、この人は〔父の愛情と母の愛情〕その両方を必要としていると書かれているのです。

ゆえに、その両方が揃っている家庭で育てば、最も順調に伸びていきます。

そうしますと——人体図にそのように書かれていても、

親が揃^{そろ}っていない環境で育つ場合もあり得るわけです。

あるいは、両親の仲が非常に悪くて、父か母のどちらか

が、家庭を捨てて出て行ってしまったとか……そのような家庭で育つと、宿命そのものが生きてこなくなります。なぜなら、宿命に合わない環境で育ってしまうからです。

〔たとえば〕英国皇室に嫁いだダイアナ妃は、不幸な死に方をしたわけです。彼女にとって、母親は自分の運勢を支えるためには必要な存在でしたが、男性と駆け落ちして家族を捨てました。

これは彼女の人生に多大な影響を与えたのです。彼女にとって必要な人物がいなくなった。ということは、宿命どおりの生き方ができなくなることを意味します。

もちろん 勿論、それだけではないのですが……母親が出て行ったことは、ダイアナの運勢を狂わせるような大きな傷跡を残したわけです。

10 車騎星と玉堂星

車騎星は行動力の星、玉堂星は知恵の星です。

車騎星 ⇒ 行動力の星〔軍人の星〕

玉堂星 ⇒ 知恵の星〔学者の星〕

車騎星は攻撃本能の星です。行動力があります。」

昔から“軍人の星”ともいわれ、軍人にも向いています。

玉堂星は知恵の星です。なにかを研究をするとか——、頭をつかうのが得意な星です。

“学者の星”ともいわれています。

このような意味合いが、それぞれの星にあります。

人体図に車騎星と玉堂星の両方をもつ人は、〔軍人の星〕

と〔学者の星〕その両方が揃っているわけです。

言葉では「文武両道の人」といえます。

〔車騎星〕〔玉堂星〕が揃っているということは、両方の星を活かしなさい、両方とも動かさないとダメですよ。

そういう意味合いにもなります。

両方の星を、うごかしなさい、つかいなさい

これから宿命を観るときには、常にこのような考え方を、頭に入れておいて頂きたいとおもいます。

☞ 36回目は〔水火の激突〕がでてきました。

水火の激突がある人は、感性が鋭いのため、鋭い感性を精神的な分野とか、あるいは、頭をつかうとか、芸術の分野とか、さまざまな世界で発揮すると見事です。ということでした。ヒッチコックは映画の世界です。

＊ アルフレッド・ヒッチコック 1899-8-13

	車騎星	天将星	} 水火の激突は無いですが、『相剋』は多く、七殺があります。
貫索星	牽牛星	調舒星	
天南星	石門星	天極星	

☞ 宅間、岡村、林、佐藤、4人の宿命を挙げましたが、その質を活かしていないと、感性の鋭さゆえに、精神の葛藤が大きくなりすぎて、何かとんでもない事を、やらかしたりする可能性も出て来ます。

このような考え方をしますよ——とやったわけです。

感性が鋭い質を与えられたということは、算命的な言い方をすれば、「星に命を与えて、感性を發揮しなさい」という役目を、天から与えられて生れて来た。そのように考えるのです。

知能が高い宿命の人は、その「知能を動かうごしなさい」という役目を与えられて生れてきた人です。このような意味合いになります。そういう風に考えます。

せっかく頭がいいのに、星をつかわないと腐ります。まっとうに活かさないで、人生を生きるようになると、運勢は普通の人以下になってしまいます。それは、与えられた宿命から外れるからです。それは人間の体とおなじで、手と足の筋力を比べると、手よりも足のほうが3倍から5倍強いといわれています。足のほうが、3倍から5倍強いのでから使いなさい。そういう意味でもあるはずです。

散歩したり、歩いたり、走ったり、健康を維持するには必要です。

健常者でありながら、座りっぱなしで、手だけをつかい、足を全然つかわない……というような暮らしを、ずっと続けていたとすれば、どこか病気になります。

強いほうを、より多く使わなくてはいけないのです。

これから「頭がいいですよ」という人体図が出てきたら、「頭をつかいなさい」という役目を与えられたと——、そのように思っても良いですね。

それゆえに、頭のいい宿命の人ほど、勉強しなくてはいけないのです。学生であれば学業は大切です。

そして、自分が求める道も勉強すればよいのです。

それだけの預金口座を自分のなかにもっているのです。

☞〔車騎星〕と〔玉堂星〕の両方もっている人は——、〔軍人の星〕と〔学者の星〕その両方あるということは、両方の星を活かさないといけません。

それゆえに、言葉を加えると、つぎのように入ります。

文武の一方が欠けると、宿命自体が伸びなくなる

文武両道の組み合わせをもっているのですから、両方をともに活動させないとダメなのです。

両方の星に命いのちを与えて、生いかしのさいという役目があります。

星は磨かないと、輝きません。

それなのに、どちらかが欠けた生き方をしたら、宿命から外れていることになります。

そうすると、宿命自体が伸びなくなります。

その帰結きけつとして、人間的にも伸びないし、運勢も伸びません。

人体図に〔車騎星〕と〔玉堂星〕の両方をもっている子供が産まれたら、勉強と運動の両方やらせるとよいのです。そうすることで、運勢も人間性も伸びていきます。

このような考え方があることを、頭に入れておいてください。

ここまで 1~10 までやりました。

二星相関変化法の考え方は、ここまで述べてきたことと、おなじような考え方を、どの場合もしていくわけです。

①

	鳳閣星	天恍星
調舒星	車騎星	玉堂星
天極星	鳳閣星	天馳星

- 鳳・鳳 — 非常にのんびりした性格と、繊細な感情が現れる。
鈍重な人生行程を歩み、時として鋭い神経を見せる。
- 鳳・調 — おおらかなのんびりさが表面にでて、孤独性や反発心は内面に隠れる。
- 鳳・車 — 粗暴を消せば気品が残り、気品を消せば粗暴が残る。
すなわち、品の良さが広い交際範囲を保ち、粗暴な質が交際下手となって、自分の道を塞ぐ。
- 鳳・玉 — 感情表現と理性的表現が入り混じる。
他人事には冷静で理性的な判断を下すのに、自分の事となると感情的になり冷静さを欠く。
- 調・車 — 行動を起こす事が目的のようになり、時には生産的でない行動となる。自分勝手な行動となれば、周囲の人たちと遊離するし、経済的に打算抜きとなる。
- 調・玉 — 常識の中の非常識となり、若年で老成風となり博学の世間知らずとなる。精神の葛藤が激しく、精神面に強く現実に弱い。
- 車・玉 — 文武両道の士となる。
理性に合う行動、行動にかなう理性となり、高い人格を形成する。

⇒ 「二星相関変化法」は難しい技法です。

15頁の人体図をつかって性格判断の練習をします。

人体図で考えられる組み合わせをすべてつかいます。

大きく書きました		
	鳳閣星	天恍星
調舒星	車騎星	玉堂星
天極星	鳳閣星	天馳星

[場所の名称]

	第四命星	第一従星
第一命星	主星	第三命星
第一従星	第二命星	第二従星

鳳閣星が2つありますから、つぎの組み合わせができます。

① 第二命星〔鳳閣星〕と 第四命星〔鳳閣星〕の組み合わせ

② 第二命星〔鳳閣星〕と 第一命星〔調舒星〕の組み合わせ

③ 第四命星〔鳳閣星〕と 第一命星〔調舒星〕の組み合わせ

②と③は、どちらも〔鳳閣星〕と〔調舒星〕の組み合わせですから、意味合いはどちらもおなじです。

④〔鳳閣星〕と〔鳳閣星〕この組み合わせは『比和』です。

『比和』については、36回目の16頁と26頁で学びました。

16頁——法則〔5〕『比和』静止 ⇒ 単にその本能が強まる

26頁——法則〔6〕『比和同星』貫索星の性質が少し加わる

『比和陰陽』石門星の性質が少し加わる

そうしますと、人体図には〔鳳閣星〕が2つありますので——、
まずは④〔鳳閣星〕と〔鳳閣星〕ということでは『比和同星』
のところで説明しました。

36回目【二星相関変化法①】28頁⇒おなじ星〔同星〕がいくつもある
ということは、おなじ性質の星ばかりが重なるわけです。

〔その星の質が倍加する〕〔その星の質が強固になる〕〔星の質が
しっかりした状態になるので頑なになる〕と記述されています。

【二星相関変化法①】41頁⇒同星が2個あるというのは一番簡単で
す。おなじ星が複数あると、その星の意味合いや本能が強まると
考えればよいのです。

そして、37回目にも説明があります。

37回目【二星相関変化法②】03~04 6 鳳閣星と調舒星『比和』

で（陰）と（陽）の場合は〔陽星〕のほうは“表面にしやすい”。

〔陰星〕のほうは“内面にしやすい”。人体図に（陽）と（陰）

をもっている人は、のんびりと神経質、この両方の性質を備えています。が、(陽)のほうが目立つので、まわりの人がその人物を見たときに……………。

上記のように、各所にちらばって記載されていますが、余分な箇所は省略します。つまり、同質の星が複数となれば、倍加された性質となり、裏側の質が表れるということになるのですが……この部分はいらないのです。

こここのところは、勉強としては大事なことなのですが、
〔たとえば〕性格判断をやってあげるというときには、「貴方は同質の星が複数あるから、倍加された性質となりますよ」「裏側の性質も表れますよ」といっても、相談にみえた人は、何のことだかわかりません。

占う側にとって、「裏側の性質」これは大事なことです。ありますが、相談者には必要ないわけです。

そういうものは省^{はぶ}いて、なるべく簡潔な文章にします。

つぎに、**6** 鳳閣星と調舒星を見てください。

鳳閣星と調舒星をもっている人は、のんびりと神経質、この両方の性質をもっていますが、陽のほうが目立つの

で、まわりの人が見たときに、鳳閣星の質〔のんびり〕のほう^{きわだ}が、際立って見えるということです。そして、調舒星の質〔神経質〕のほうは、内面に隠れてしまうわけです。この部分も必要ないのです。

そのほかの文章のところでも、〔たとえば〕七殺になっているから〔何だとか〕〔相剋で陰陽だからこうですよ〕とか、そういった部分はなるべく省いて、少しでも簡潔な文章に、まずはしておくわけです。

⇒ 比和で（陰）と（陽）になっている場合には、その星であっても、陽星のほうが表面にでやすいのです。

鳳閣星と調舒星の場合は“のんびり”のほう^{ひと}が、他人の目にとまりやすく、鳳閣星のもつ性質が目立つわけです。調舒星の孤独性、反発性は内面に隠れる……とかの部分も必要ないわけです。

「外面は鳳閣星が出ますよ」「内面は調舒星がでますよ」といったところで、性格判断を受ける相手にとっては、なにが鳳閣星で外面なのか、なんで調舒星が内面なのか、わからないわけです。それゆえに、むしろ ➡

むしろ「のんびりさが表面に出ますよ」「孤独とか、反発心は内面に隠れますよ」といえば、それで済むわけです。

そして、余分な部分をなるべく削って、少しでも簡潔な文章にしたのが **16 頁の文章①** です。

その文章には〔鳳・鳳〕と〔鳳・調〕のほかに、〔鳳・車〕の組み合わせもあって、〔鳳・玉〕もあります。

そして〔調・車〕と〔調・玉〕の組み合わせもあり、最後には〔車・玉〕という組み合わせができます。

これらの組み合わせは、人体図のありとあらゆる組み合わせのすべてです。その全てをつかっていきます。

☞ 全ての組み合わせを、見落とさないように探して書き出すのは、チョット大変かと思います。

人体図を「二星変化法」で占うときは、全ての組み合わせを書き出して、並べて見ることになります。そのようにして書いた **16 頁の文章①** は、参考にして頂くための文章ですが、人体図が所有しているすべての性質です。

☞ 人体図でたくさんの組み合わせが出てきてしまうとどうなるのか……22 ページの実線内を見てください。

〔鳳閣・鳳閣〕があるから、のんびりした性格で、繊細な感情をもつ……。

〔鳳閣・調舒〕もあるから、のんびりは表面に出るけど、神経質は内面に隠れる……。

〔鳳閣・車騎〕もあり、粗暴を消せば気品が残り、気品を滅すと粗暴が残り、そのどちらも出る可能性がある……。

〔鳳閣・玉堂〕感情的・理性的、両方の動きが横たわっていて、他人のことには理性的だけど、自分のことになると感情的になる……。

〔調舒・車騎〕があるから、自分勝手な行動をとると、周囲の人と遊離する……。

〔調舒・玉堂〕常識のなかの非常識で、心奥の葛藤が激しいけど精神面に強い人……。

〔車騎・玉堂〕があり、文武両道の質もそなえている……。

実線内のように、1個ずつを、ただ並べただけでは——
性格判断にはならないわけです。

性質が多すぎて、どういう人物なのか、わかりません。

人によっては、もっと少ない組み合わせもありますし、
もっとたくさん出てくる組み合わせもあり得ます。

そうしますと、実線内のなかで、この人の性格の特徴と
なる部分を見つける必要があります。

特徴を探しましょう。

特徴を探するとき、実線内のなかに書いた組み合わせで、
おなじような意味合いを、説明している部分があれば、
そこはその**性格の特徴**だということになるのです。

つまり、〔この部分〕と〔この部分〕は大体おなじだと、
複数にわたって、おなじような意味合いの箇所があれば、
そこが**性格の特徴**ということになります。

どうですか、実線内にそういう部分ありますでしょうか……？

実線内を見ますと：

〔鳳閣・鳳閣〕があって、のんびりした性格と、繊細な感情をもつ……とあって、〔鳳閣・調舒〕には、のんびりは表面に出るけど、神経質は内面に隠れる……。という箇所は大体おなじような意味合いですよ。

厳密に考えれば、もちろんチョット違いますけど、でもこれはですね……厳密に考えれば、全くおなじ意味合いということではないわけです。どの組み合わせを見ても全部違う星なわけです。それゆえに、大体おなじような意味合いであれば、くくってしまってこれに **Ⓐ** というような、印をつけておきます。

そうしますと **16 頁の文章①** の記述にあるように……

鳳・鳳 — のんびりした性格と、繊細な感情が現れる。

鈍重は人生行程を歩み、時として鋭い神経を見せる。

鳳・調 — おおらかなのんびりさが表面にでて、孤独性や反発心は内面に隠れる。

そうしますと、**鳳・調** のところでも、のんびりさが表面に出て、孤独性や反発性は内面に隠れる。とあります。

この部分は大体おなじですよ。

厳密に考えれば、チョット違うところもありますけど、両方とも、のんびりした性格をもっているわけです。

そして、一方は、繊細でピリピリした面をもっている。というようなことをいっているわけです。

そうしますと、このような部分で、重複している箇所が複数にわたってあれば、そこは“**性格の特徴**”であるというふうにみなします。

ほかにも、大体でよいのですが、似たような意味合いを説明している部分ありますでしょうか……？

部分的でも構いませんよ。

文章そのままそっくりおなじでなくても、この部分と、この部分はおなじようだ——それでもいいのです。

鳳・玉 — 感情表現と理性的表現が入り混じる。他人事には冷静で理性的判断を下すのに、自分のこととなると感情的になり冷静さを欠く。……ここの箇所を **㊀** とします。

そして **調・玉** — 精神の葛藤が激しく……ここも **㊀** と一緒にいいのではないかと思います。理性と感情は反対の意味合

いですが、この場合は感情的になる事がありますよと、内面も葛藤が大きいですよと、……感情が激しいものをもっていますよ、というふうな意味合いにおいて、この部分だけ共通しているとおもえます。

あとほかには……、

鳳・車 — のところに、気品もあるけど、粗暴なところもありますよと、粗暴が出るときには、粗暴な質が交際下手となって、自分の道を塞ぐという箇所があつて——と、**調・車**—にも、おなじような意味のところがあつて——、自分勝手な行動となれば、周囲の人達と遊離するしと、この部分を © とします。

この意味はほとんどおなじといえるでしょう……粗暴というのを、感情的になり冷静さを欠く。という部分とリンクさせてもよいと思います。つまり、意味としては、自分勝手な行動となれば、周囲の人達と遊離するというのと、粗暴な質が交際下手となって、自分で自分の道を塞ぐ……というのは、ここ大体おなじような意味でないかと考えて、ここも © にくくりましょう。

だいたいこのくらいでよいのではとおもいますけど……。

24 頁の実線内を見ますと、……ここからはじめてわけですが、まとめ方の一つの例だと想ってください。

くくり方とかが、若干ちがっても、占い自体には、そう大した影響にはならないはずです。

のんびりした面と、おおらかな面と、孤独・反発性という両方を——まず備えた人で、見た目はのんびり見えるけど、内面はすごくピリピリしている人だな——と、まずは、**Ⓐ**の性格の特徴の一つといえます。

そして、ときにはすごく感情的になり……、冷静さを欠く事がある人で、内面の葛藤がすごく激しいです。これも1つ特徴です。

また、粗暴な質も出すときがあって、そういうときは、周囲と合わなくなっ、自分勝手に粗暴な質を出して、周りの人達から離れてしまいますよ。これも特徴です。

そうしますと、この3つが大きな特徴になるのではないかと考えるわけです。

⇒ ここからは ② 金正日（キム・ジョンイル）の宿命です。

金正日（キム・ジョンイル）の生年月日は2つあります。

(1) 1941-2-16 (2) 1942-2-16 [どちらが正しいのか不明です]

ここでは (2) 1942-2-16 の生年月日で話を進めます。

ちなみに、金正日（キム・ジョンイル）の息子が、現在の北朝鮮の指導者である金正恩（キム・ジョンウン）です。

②

金正日（キム・ジョンイル） 1942-2-16

庚 壬 壬		鳳閣星	天恍星
子 寅 午	調舒星	車騎星	玉堂星
	天極星	鳳閣星	天馳星

〔二星相関変化法〕まとめ

おおらかで、のんびりした質を外面に持つ反面、内面には繊細な感情と孤独性・反発性を持つため、時に鋭い神経を見せる。

精神の葛藤が大変激しく、特に他人事には冷静であるが、自分の事となると感情的で冷静さを欠く。

生産的でない行動、自分勝手な行動となりやすく、その時は気品よりも粗暴な質が現れるため、周囲の人達と遊離し、自分で自分の道を塞ぐ。

博学の世間知らずとなり、都会よりも田舎生活に向く。

文武両道を鍛えることで、理性と行動が一致した高い人格を形成することができる。

①

	鳳閣星	天恍星
調舒星	車騎星	玉堂星
天極星	鳳閣星	天馳星

- 鳳・鳳 — 非常にのんびりした性格と、繊細な感情が現れる。①
鈍重な人生行程を歩み、時として鋭い神経を見せる。
- 鳳・調 — おおらかなのんびりさ ① が表面にでて、孤独性や反発心①
は内面に隠れる。
- 鳳・車 — 粗暴を消せば気品が残り、気品を消せば粗暴が残る。
すなわち、品の良さが広い交際範囲を保ち、粗暴な質が交際
下手となって、自分の道を塞ぐ。③
- 鳳・玉 — 感情表現 ② と理性的表現が入り混じる。
他人事には冷静で理性的な判断を下すのに、自分の事となる
と感情的になり冷静さを欠く。②
- 調・車 — 行動を起こす事が目的のようになり、時には生産的でない行
動となる。自分勝手な行動となれば、周囲の人たちと遊離す
るし、③ 経済的に打算抜きとなる。
- 調・玉 — 常識の中の非常識となり、若年で老成風となり博学の世間知
らずとなる。精神の葛藤が激しく、② 精神面に強く現実に
- 車・玉 — 文武両道の士となる。
理性に合う行動、行動にかなう理性となり、高い人格を形成
する。

② 金正日（キム・ジョンイル） 1942-2-16

陰占は、年干支から「壬午」「壬寅」「庚子」という宿命です。

16 頁の文章① をアンダーラインでくくってしまった① ② ③ の文章が 29 頁です。

①でくくった箇所を 3 つ合わせると：

おおらかでのんびりした性質を外面に持っている反面、内面には繊細な感情と孤独性や反発性を持っていると、だから、ときとして鋭い神経を出します。

このような文章にすると、わかりやすいと思います。

つぎは 3 行目、これは②です。

②の感情的、あるいは自分の事になると感情的、冷静さを欠く…、精神の葛藤が激しいですよと、いう部分。

②の部分を 3 つまとめて、このような 1 つの文章にする
とよろしいとおもいます。

③の箇所をまとめると、アンダーラインが引かれている
意味合いになると思います。

おわかりになりましたでしょうか。

①②③のここまでが【一応性格の特徴と呼べるところ】です。

そして〔一応性格の特徴と呼べるところ〕① ② ③の箇所を統合した文章が、28頁⇒ ②〔二星相関変化法〕まとめになります。

見た目は——おおらかでのんびりした質を外面に持っているけど、内面には繊細な感情と、孤独性や反発性を持つから、時に鋭い神経を出す人です。

このようにして、まず特徴をつかむと、性格判断はしやすいはずです。

あと残りの3行ほど、博学の……、

こここのところは、①②③のなかで、くくらなかつた部分を、簡潔に付け足したわけです。

そうすると、割と上手な性格判断ができます。

ただし、一応頭に入れて置かなくてはいけないのは——どの人体図でも、あるいは、どのような星の組み合わせでも、これが良い組み合わせとか、これは悪い組み合わせとか、そのような組み合わせは、もともとないのです。

どの組み合わせであっても、それを真っ当に活か^いせれば、

それなりに見事な人になると考えます。

どのような星の組み合わせであっても、それを“きちん”
と生かすことができなければ、運勢も、人間的にも、あまり伸びないことになってしまうわけです。

この人物のなかに、車騎・玉堂の組み合わせがあります。
文武両道の士となるとありますよね。

「文武二道ぶんぶにどうを鍛えることで、理性と行動が一致した高い人格を形成できる」と書いてありますが、車騎と玉堂の両方をもっている、文武二道を〔鍛えている〕〔鍛えていない〕そのどちらかによって、人間的にまったく異なる人物になっていきます。

そうしますと、この人物は両方を鍛えているのでしょうか……？

この人物は、北朝鮮の軍隊経験が全くないそうです。

北朝鮮の初代指導者・金日成きむいるそんの息子、北朝鮮の跡継ぎということで、軍隊には1度も入ったことがない、鍛えたこともない、見た感じも、武のほうは苦手でしょう。

実際に鍛えていないのなら、「理性と行動が一致した高い

人格を形成できる」とは、なれないわけです。

むしろ、片方でも欠けたら、片寄った人間になります。

このように考えていくわけです。

おなじ星をもっている、すごく立派な人格の人もいれば、そうではない人も出てくるわけです。

その人生模様、星をどのように生かし、どのように活かしているのかによるわけです。

⇒ 少し難しいところですが、人体図はつぎのように観ていくことになります。

	鳳閣星	
調舒星	車騎星	玉堂星
	鳳閣星	

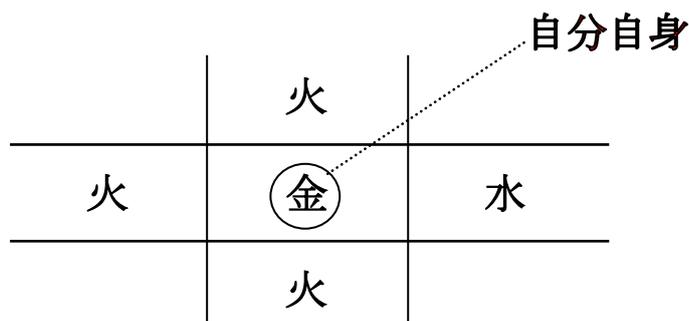
人体図を五行に書き直しました。

	火	
火	金	水
	火	

鳳閣星は火性の星で2星あります。

車騎星は金性の星、調舒星も火性の星です。

玉堂星は水の星ですから、五行（木火土金水）に書き直せます。



そうしますと、真ん中が金性で、その金性は自分自身です。

真ん中は主星の場所です。主星はその人物の本質です。

真ん中の主星の星に、自分自身と当て嵌^はめて、人体図では占いを
していくようになります。

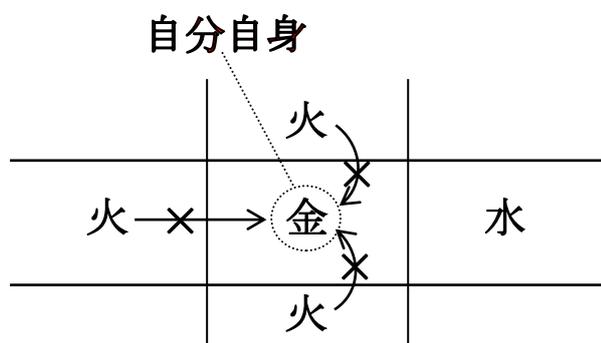
もう少し勉強が進むと、この観方が改めて出てきます。

少し難しいところもあるかと思いますが、こういうふう
に、占っていくのだと想って、星を^よ読んでください。

この人物は真中が金性（自分自身）です。

そうしますと、人体図のなかで、金性はどのような状況
に置かれているのか……ということを考えます。

この金性（自分自身）は、どんな状況にあるのでしょうか？



自分のまわりはすべて火です。火に囲まれている金性です。

そうしますと、（火→×金）（火→×金）（火→×金）と、まわりの三方から、火に剋くされています。

火は金を溶かしてしまうことができます。

火は金をやっつけてしまうことができます。

三方から剋くされる姿は、体図の大きな特徴になります。

三方以上から自分が剋くされている人体図は珍しいのです。

主星（自分）が三方から相剋されている

主星の金性が（火→×金）（火→×金）（火→×金）と、三方からメタメタにやっつけられている、ともいえます。

主星は自分自身の場所で、自分の本質です。

主星がまわりから、袋叩きに遭っていますから、精神不安定な人になっていきます。

- ・精神不安定な人—— そのように占います。

そして——つぎのようにもいえます。

主星がまわりから、相剋されている姿というのは、主星だけが孤立している状態です。

火に囲まれ、孤立している金性です。

・ 主星がまわりから孤立している



・ 精神的に孤独な人



・ まわり心を許さない

精神的にとっても孤独な人といえますし、自分もまわりに対して、心をゆるめない。

常に心を引き締め、部下にも心を開かない。

こういう人物になっていきます。

自分は金性なのに、まわりでは3つも火が燃えているわけですから、まわりの炎に心を許せません。

この人は側近に対しても、国民に対しても、外国に対しても、余程の事が無い限り、心を許さないといえます。

しかし、この性質が必ずしも悪いとは決まっていません。

“孤立”していますが、孤高の人ともいえます。

・ 孤高の人〔ひとりほかにぬきんでて高い境地の人〕

このような人体図の人は、良くいえば、ひとりだけ超然として、世俗（世のならわし）にこだわらないで、かけ離れた人物ともいえるわけです。

真ん中が金性で、炎に囲まれている姿ですから、まわりとは全然違う性質なわけです。

孤立しているわけですが、“あの人物は気高くて普通の人じゃありませんよ」そのように周囲から見られる。

そのように^{おも}想わせる質をもっています。

「将軍様と^{あが}崇められ、手が届かない人」そのように想わせることが出来る人でもあるのです。

それゆえに、このような人体図は孤高の人にもなれます。

それが〔よくでるのか……〕〔悪くでるのか……〕という話にもなってきます。

☞ 悪く出ればどうでしょう………どういう人物になると
おも
想えますか？

この人物は、ひとりだけ周囲と孤立しています。

(火→×金) (火→×金) (火→×金) と、あっちからも、
こっちからも討たれて^ういます。

“自分はまわりとは違う” そのように言っている人体図
ですが、悪くでると周囲に反発します。

・ 悪くでれば、まわりに反発する



反社会的

自分を囲むまわりと、合い入れない状態です。

ゆえに、悪く出れば、世の中に反発する人、反社会的な
人間になります。

もっと強くエスカレートすれば、世界に反発する人物に
もなります。

こういう人物が、北朝鮮の国家元首で、北朝鮮の將軍様
だったのです。

このような人体図をもつ人物が、国家元首に就くと——
 国そのものが、それに応じた国になっていきます。

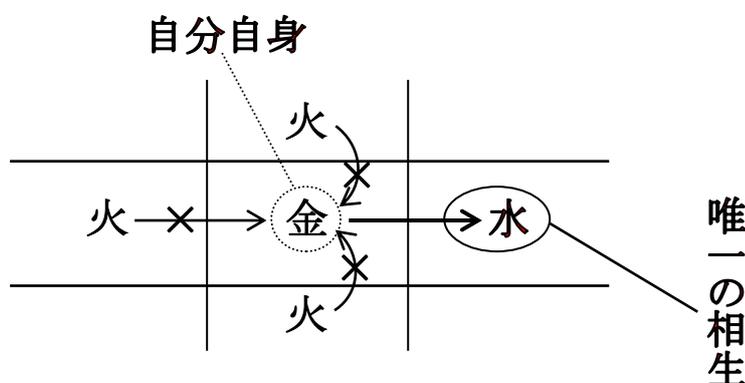
算命学では、つぎのように考えています。

北朝鮮はこの人物が国家元首に就任してから、精神不安定な国になりました。周囲から孤立している国になります。

精神的に孤独な国です。まわりに心を許さない国です。

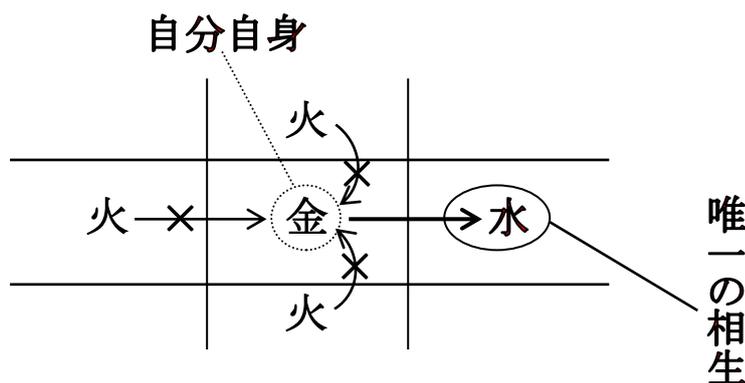
でも、よくであれば、特出した孤高の国ともいえますし、
 悪くであれば、まわりに反発する、反社会的な国。
 そのようにもいえるわけです。

☞ そうしますと、人体図に 1 個だけ水があります。



(金→水) と、ここだけが、唯一、相生になります。

唯一、相生になる星は第三命星の〔玉堂星〕です。



(火→×金) (火→×金) (火→×金) と、3つの^{かえん}火炎から相剋されている状況ですが、1個だけが(金→水)と相生になります。

そうしますと、「二星変化法」で、相生はどういう現象を起こすのでしょうか……？

法則〔4〕『相生』 静的現象〔星同士が相生になると静的現象〕

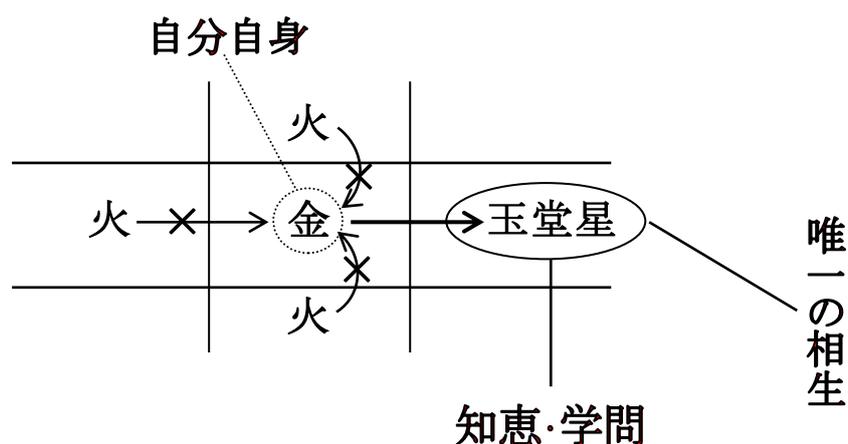
静的現象ですから、心が落ち着くわけです。

(火→×金)の相剋は、星のぶつかり合いであり、激しい感情になりますけど、『相生』がありますから〔玉堂星〕のうごきによっては、心・気持ちがおさまります。

感情の^{たか}昂ぶりが^{おさ}納まるわけです。

そうしますと、この人物は〔玉堂星〕を^い生かしているときだけは、心が落ち着くといえるのです。

玉堂星が光り輝けば安定します。



〔玉堂星〕は、知恵の星、学問の星ですから、興味のある学問、あるいは、自分が好きな趣味とか——この人物は、映画がすごく好きだということです。

韓国の映画監督を拉致して、映画を作らせたそうです。この人にとっては、学問に限らず、好きなことをやっているときは心が落ち着く——そのように考えます。

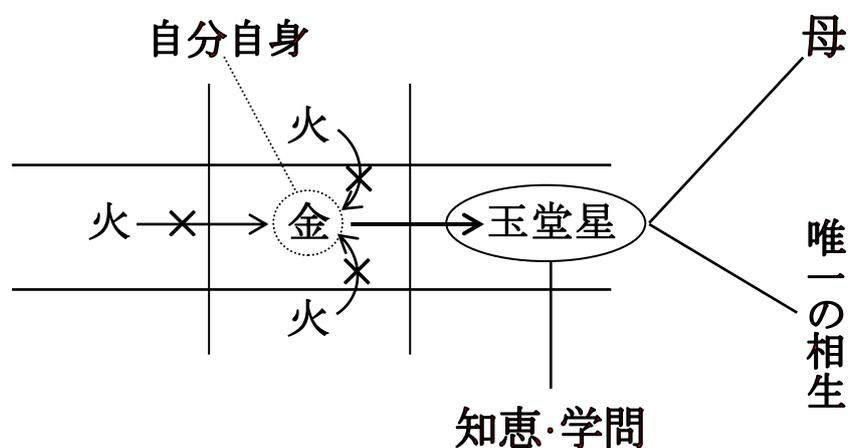
☞ いくぶん難しいとは思いますが、人体図を観ますと〔玉堂星〕が唯一の『相生』になっています。

ここでの〔玉堂星〕は、孤星こせいといいまして、彼の人体図でフォーカス（主要点・中心的ピント）になる星です。

唯一、穏やかな気持ち・落ち着いた心、それを得られるポイントになる星が〔玉堂星〕です。

〔玉堂星〕を人物でいえば、誰になりますか？ ➡

〔玉堂星〕を人物でいえば、誰になりますか？



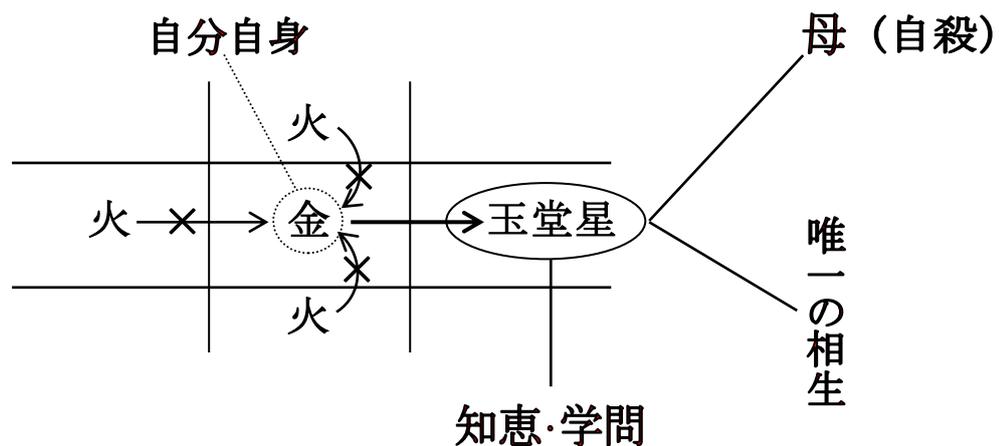
玉堂星は知恵・学問の星ですが、人物になおすと母親です。玉堂星は実母の星です。〔龍高星は育ての母です〕

先ほど〔玉星堂〕は知恵・学問の星なので、興味のある学問をやっているときは、心が穏やかになりますよ。と
 いいましたが、それとおなじことを人物でもいえます。
 ただし、母親が生きていて、しっかりしてくれていれば
 です。

母親が愛情をもって慈しんでいれば、この人物の心が落ち着きます。安定します。

精神不安定も解消されます。

ところが——彼が子供の頃に、母親は他界しています。



母親は自殺したといわれていますが、真実は不明です。その後に、後妻が来て、腹違いの兄弟が何人もいます。腹違いの兄弟とは、非常に仲が悪いとのこと。

この宿命で、たった一つの精神のよりどころであった、母親が早死にしているということは、精神不安定な人間になります。母親がいないことで、とても孤独で反社会的な質をもつ人物になります。このように考えます。母親が必要な人体図です。

このような人体図の人物であっても、母親の存在があり、その母が愛で慈^{いっく}しむ育て方をしてくれば、まっとうな人間に育ちます。

【初年】 37回目【二星相関変化法②】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 38回目【陰占宿命 いんせんしゆくめい】です。